

B 日 程

〈出典一覧〉

国語	中村雄二郎	「子供－深層の人間／小さい大人／異文化」（『術語集』所収）	岩波書店
国語	小林保治 全訳注	第二十 程嬰と白杵、敵を欺き、主君の遺児を成人せしむる語（『唐物語』所収）	講談社
国語	神里達博	令和の日本 「強さ」より「面白さ」で勝負（月刊安心新聞 plus）	朝日新聞社
世界史		至元通行寶鈔	日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵

問8 タイトルに「面白さ」とあるが、このことについて次の問いに答えなさい。

- (1) どのような点が面白いのか、「多様性」という語を用いずに二十五字以内で記しなさい。解答番号は 36
- (2) その面白さに関することがらについて内容に一致しているものには①を、一致していないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 37、41
- 37 元号が変わったことを日本人が喜んでいる様子を捉えた外国メディアを通して、日本の文化の面白さが見えてきた
- 38 日本の工業製品が「安かろう悪かろう」の時代から、急速に品質を進化させられたことも面白さのひとつと言える
- 39 日本は、歴史的、地理的に活動の中心から遠くに位置づけられているために、面白い文化が生じたと考えられる
- 40 「偉大な国」「強い国」では、面白い文化は生じず、日本はそのような「本流」では生き残れないと筆者は考えている
- 41 他国の影響の少ない島国ならではの古来の日本の文化のありようが、今日のサブ・カルチャーへとつながったのである

問3
 似た経過をたどったと言えるかもしれないとあるが、どのような点で似ているのか、その内容についてももっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 30

- ア アメリカでは評価されなかった品質管理論を逆輸入した点で、「日本国見在書目録」に似ている
- イ 発祥の国では廃れたり失われたりしたものが日本には残り、再評価された点で「佚存叢書」に似ている
- ウ 外国の品質管理論を日本に合わせた点で、舶来文化を独自に進化させた茶道などに似ている
- エ 本国では注目されない品質管理論を大切に守るべきだと考える人がいる点で元号に似ている
- オ アメリカには記録がない品質管理論が日本には残っていた点で「日本国見在書目録」に似ている

問4
 世界市場を席巻するまでになったとあるが、このことについて次の問いに答えなさい。

- (1) 「席巻」の読みをひらがなで記しなさい。解答番号は 31
- (2) さらにこれはどのようなことであるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 32
- ア じわじわと勢力を拡大し、世界が知らないうちに市場を日本のものにした
- イ 世界市場をコントロールできるぐらいに、シェアを占めるようになった
- ウ 世界市場の中でも、もっとも優れたものとしての位置を占めるようになった
- エ あっという間に力を持ち、片っ端から世界市場を日本の勢力範囲にした
- オ 他者や他国を押しつけてのし上がり、世界市場で製品の売り上げが第一位になった

問5
 このような事例とあるが、これらの事例とアマミノクロウサギでは異なる点がある。それはどのようなことか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 33

- ア アマミノクロウサギは非常に古いタイプであることが分かっているのに対し、ほかの事例は古いかどうか判断不可能なこと
- イ アマミノクロウサギはウサギ自体で変化を遂げているのに対し、ほかの事例は外からの影響を受けていること
- ウ アマミノクロウサギは希少種として珍重されているのに対し、ほかの事例はその存在自体にそれほどの価値がないこと
- エ アマミノクロウサギは昔からその価値が認知されていたのに対し、ほかの事例は近年になって再評価されたこと
- オ アマミノクロウサギは外的要因の変化の結果であるのに対し、ほかの事例はそれぞれの内的事情による変化であること

問6
 Xにはいる語句として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 34

- ア 存在のスケール
- イ 時間のスケール
- ウ 文化のスケール
- エ 評価のスケール
- オ 価値のスケール

問7
 物事をマクロに見ればとあるが、これはどのようにすることか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 35

- ア 単線的な見方をするのではなく、多様に物事を捉えること
- イ 価値のあることとないことを見極めて、物事を捉えること
- ウ 外部の視線を媒介にして、客観的に物事を捉えること
- エ その文化に共通する事例を見出して、総括的に物事を捉えること
- オ 部分的なことにこだわらず、全体として物事を捉えること

第三問 【選択問題 現代文】

次の文章は、新聞の連載記事の一つである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権上の理由から削除

(神里達博「月刊安心新聞」二〇一九年四月十九日 朝日新聞)

問1 極東の島国^①とあるが、「極東」とはどのようなことを示唆しているのか、本文中から二字で抜き出して記しなさい。解答番号は 28

問2 空欄 A から E にはいる語の組み合わせとしてもっとも適切なものを選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 29

- ア そのため―なて―そもそも―さらに―ところが
- イ そもそも―なて―さらに―そのため―ところが
- ウ そのため―そもそも―ところが―さらに―なて
- エ そもそも―なて―そのため―ところが―さらに
- オ さらに―そもそも―ところが―なて―そのため

問4 母の心に喜び深しとあるが、この時の心持ちを説明したのが次の一文である。この中の【Y】の内容に該当する本文の箇所を十四字で抜き出し、はじめとおわりの四字を記しなさい。解答番号は 20

趙朔の妻は、我が子が助かり、将来【Y】ことができるだろうと思い、喜んだ。

問5 難きこととはどのようなことを指すか、その内容として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 21

- ア 主君の仇討ちの志を貫き通すこと
- イ 趙朔の子を無事に成人させること
- ウ 趙朔の子を母親の元に戻すこと
- エ 亡き主君の名譽を挽回すること
- オ 主君への礼節を持ち続けること

問6 求め給へるの「給へ」は誰に対する敬意を示したものか、もっとも適切な人物を次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 22

- ア 程嬰
- イ 杵臼
- ウ 屠岸賈
- エ 趙朔の子
- オ 趙朔の妻

問7 おこがましく覚えながらの意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 23

- ア 己のことを恥すかしく思いながら
- イ 敵の様子が気がかりに感じながら
- ウ 己の行いを差し出がましく感じながら
- エ 敵のことをおろかしく思いながら
- オ 敵をあざむいたことに満足しながら

問8 いつしか殺さん(いつしか)と同じ意味の語を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 24

- ア なべて
- イ いとど
- ウ やがて
- エ やうやう
- オ つとめて

問9 昔の恩とあるが、具体的にどのような心情からの言葉か、そのことを端的に示している箇所を、本文中から十文字以内で抜き出し、はじめの四字を記しなさい。解答番号は 25

問10 敵疑ふ心なければとはどのような状況の説明か、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 26

- ア 趙朔の一族をすべて滅ぼしたと想っていた
- イ 自らの天下となることを確信していた
- ウ 程嬰との取引を隠し通せたと想っていた
- エ 主君からの信頼を回復できたと考えていた
- オ 親が敵に殺されたことを知らなかった

問11 この作品は、鎌倉前期までに成立したとされるが、この作品以後に成立したものとして、正しいものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 27

- ア 梁塵秘抄
- イ 増鏡
- ウ 千載和歌集
- エ 蜻蛉日記
- オ 続日本紀

問2

次の各文の空欄にはいる語句を、それぞれア～オの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

15・16

15 換骨 X とは、先人の詩文の発想を取り入れて、新たに独自の作品を作ることである。

ア 碎身 イ 審胎 ウ 撤退 エ 奮闘 オ 深長

16 「うつつを抜かす」の意味は、 Y である。

ア 知ったかぶりをする イ 相手に頼みへつらう
エ 夢中になって正気を失う オ うっかりする
ウ 自由に生活する

第二問 【選択問題】 古文

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。
〔これまでのあらすじ〕

中国の晋の景公に仕え、政を行っていた趙朔^{ちやうしやく}という人物がいた。同じ主君に仕えていた屠岸賈^{とらんげん}は、この趙朔を排斥しようと画策していたが、なかなか事が思うように進まないことから、とうとう趙朔とその兄弟全てを滅ぼした。

その中に、年頃あひまじたりける妻なん一人、*このことにまぬがれにける。おりしもただならぬこと¹⁵にありて、隠れ感ふに付けても、わりなくかなしかりけるを、杵臼^{きういづ}・程嬰^{ちやうえい}といふ二人のつかはれ人、主を思ふ心深ければ、人知れず隠して育みて、「もし生まれたらん子、男子ならば、親の敵をも思ひ知りなん。ただいかにもして事なく人とならんことを思ひはからひけるを、敵漏れ聞きて、めざましくなん覚えければ、なを尋ね求めども、その跡を失はん」と思ひけり。これによりて、この女隠れ感ひながら、本意のごとく男子を産みてけり。杵臼・程嬰限りなく嬉しく思ひけるにも、わりなくして、手づから自ら隠し忍びつつ養へりける程に、この敵の屠岸賈、このことを聞きつけて、あながちに漁り求めけり。母の心にせん方なく覚えながら、着たりける袴の中に、子を入れて教へて曰く、「親の跡を継ぎて、君に仕へ奉るべき者ならば、物の心を知らず、いとけなしといふとも、声を立てて泣くことなかれ。もし又この時にあたりて、子孫長く絶ゆべきならば、早く泣くことなれ。母の心に思ひつつ、深く隠れみたるに、本意のごとく音なかりければ、敵求めかねてかへりぬ。母の心に喜び深し。」

しかれども、この愛へにきては、絶ゆる時あるべからずと嘆きわびつつ、程嬰に杵臼語らひて曰く、「この人を事なく養ひたてて、父の跡を継がせんと、命を捨てんと、いづれか難かるべき。程嬰答へて曰く、「死なんはやすし。平らかに養ひたてんことはいと難し」と言ふに、杵臼が曰く、「恩の深きとは、君我にまされりき。やすきにつけても、我まつ死なば、その後継ぎこと

を遂げて、必ず仇を報ひ給へ」と言ひつつ、おさなき子を一人抱きて、深き山の中に隠れめたり。

程嬰敵に告げて、偽りて曰く、「我求め給へる子のあり所を知れり。願はくは、金千両を賜へて教へ奉らん」と言へるを、敵喜び騒ぎて、たちまちに金千両を与へつつ、おこがましく覚えながら、しるべをして、この所に向かへるに、杵臼子を抱きてあきれたるけしきにてめたり。敵これを見て、いづしか殺さんとす。杵臼叫びて曰く、「愚かなるかな程嬰、昔の恩を忘れて諸共に人となさずと言ふとも、いかでか千々の金にふけりて、一人の子をば殺すべき。今は我を失はんことはそのいはれなきにあらず。いとけなき子におきては、何の罪かはあるべき。願はくは生けよ」と言ひければ、たちまちに、二人ながら殺しつ。この後まことの子をば程嬰とりて山の中に隠せり。年月をふれども、敵疑ふ心なれば、又そのわづらひなくて十五になりぬ。

(唐物語)

*このこと………屠岸賈が趙朔とその兄弟全てを滅ぼしたこと。

問1

17 ただならぬこと¹⁵の内容として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

- ア 趙朔の一族が屠岸賈に討たれたこと
- イ 屠岸賈が趙朔の一族を探していること
- ウ 趙朔の家臣に子の養育を委ねること
- エ 趙朔の妻が趙朔の子を妊娠したこと
- オ 屠岸賈が主君の命令に背いたこと

問2

18 めざましくなん覚えければ¹⁶を、「覚えければ」の対象を明確にして、現代語訳しなさい。解答番号は

問3

19 空欄 X¹⁵にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

- ア らし
- イ らむ
- ウ べし
- エ めり
- オ まじ

問4 私たちにとって自明なものとされていた子供の観念^②とあるが、その観念を表しているものを次の中からすべて選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 5

- ア 若い大人として扱われる存在
イ 家庭内で大事に育てられる存在
ウ かけがえのない存在
エ 匿名状態の存在
オ 神に近い固有な存在

問5 柳田国男^③ についてのキーワードをA群・B群から組み合わせた中で、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 6

- 〔A群〕 A 小説家 B 民俗学者 C 文芸評論家
〔B群〕 a 「遠野物語」 b 「大和古寺風物誌」 c 「敦煌」
ア Aとb イ Bとc ウ Cとa エ Bとa オ Cとb

問6 空欄 A から C には、一か所だけ「しかし」がはいる。もっとも適切な箇所を選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 7

問7 潜在的に神であると考えられた^④とあるが、「潜在的に」と断ったのはなぜか、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 8

- ア ふつうの生活のなかではその社会において特別扱いを受けなかったから
イ 神と見なされながらも年長者から社会生活のルールを学ぶことが多かったから
ウ 子供の遊びに神を祀る行事が潜んでいるのに普段は気がつかないものだから
エ 子供は神が自分の意志を伝える仲介者として使われているにすぎないから
オ 子供はかけがえのない存在としては認識されず、各個人と神とがつながらないから

問8 子供たちの本来の姿^⑤とあるが、これを別の語句で表現している部分を本文中から五字で抜き出さない。解答番号は 9

問9 子供は、私たち大人が世界を捉えなおし世界と新しい関係を結ぶために大きな示唆を与えてくれる^⑥とあるが、子供の持つ力がなぜそのような働きをするのか、その理由を文中の語句を用いつつ、三十五字以内で記しなさい。解答番号は 10

問10 子供の主題化^⑦とあるが、それは子供をどのように扱うことか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 11

- ア 発達・教育の枠組みから外して子供の主体的成長に任せること
イ 反秩序性の体現者に主権を譲り、その世界観に身を委ねること
ウ 子供の世界や宇宙の独自性に一目置き、正体不明の不安から逃れること
エ 発達・教育以外の観点で子供に自分の場所を確保させること
オ 子供を大人の連続的存在と見えずその独自性を尊重すること

(二) 次の問いに答えなさい。

問1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれ各群のA～Eの中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 12～14

- 〔A群〕 ア 希望者がサツトウする
イ 物価がコウトウする
ウ ミトウの秘境を冒険する
エ 空港でトウジョウ手続きをする

- 〔B群〕 ア さまざまな思いがキヨライする
イ 強がってキヨセイを張る
ウ 東京をキヨテンに活動する
エ キヨウ量を超える

- 〔C群〕 ア 物語をソウサクする
イ バイオリンのエンソウを聴く
ウ 野生動物にソウグウする
エ 準備タイソウをする

〔D群〕 14 楽器を自在にアヤツル

〔E群〕 13 ケンキョいな人柄

第一問 共通問題 現代文

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

後になって改めてその意味の大きさに驚かされたのだが、一九六〇年代の冒頭の三年間に、明確なかたちで示された三つの新しい人間の発見があった。Ph・アリエス『子供の誕生』(一九六〇年)による子供の発見であり、M・フーコー『狂気の歴史』(一九六六年)による狂人の発見であり、そしてC・レヴィ・ストロース『野生の思考』(一九六六年)による未開人の発見であった。

この三つの新しい人間とは、近代ヨーロッパのヒューマニズムが自分たちの社会の内部と外部に見られてきた深層的人間にはかならないが、六〇年代半ばからの(構造主義)の流行のなかで、まずレヴィ・ストロースとともに未開人と野生の思考が、ついでフーコーとともに狂人と狂気が脚光を **X**、それに対して、アリエスの仕事に一般に評価されることになったのは七〇年代に入ってからである。

(中略)

では、アリエスによって私たちに明らかにされたことはなんであったか。それは、私たちにどうして自明なものとして見られていた子供の観念が古来ずっとあったものではなく、近代家族の形成・成立とともにもたらされたものであり、それ以前の「子供観」はまるで違っていたということであった。

すなわち、近代以前の古いヨーロッパ社会では、人々に「子供」という時期がなく、人間ははじめから(小さい大人)とされた、それも、ひとりで自分の用を足すに至らないもつとも弱い、短い時期だけに限られ、自分でなんとか用が足せるようになる(若い大人)として大人たちと一緒にされ、仕事も遊びも大人たちと共にするようになる。そうすることをとおして、大人たち

のすることを手伝いながら、生きていく上に必要な知識を学んでいった。当時の社会では子供は――良家の子供でも――下働きや家事の手伝いをし、家庭内で大事に育てられるものなどとは、およそ考えられなかった。

それだけではない。子供が幼くして死んだ場合、人々は悲しまなかったわけではなく、かけがえのない存在とは思えず、むしろ、すぐ代わりの子供が生まれてくるように思われていた。つまり子供は、まだ匿名状態の、とりかえのない存在ではなかった。子供の服装にしても、近代以前の社会では、特定のものはなく、子供は、大人と同じ服装をさせられていた。

アリエスが明らかにしたこのようなことを読むと、私たちは、一方では子供についての近代的な固定観念が破られるとともに、複雑な気持になる。というのは、アリエスが近代以前のヨーロッパ社会のうちに見ている子供の姿は、柳田國男(た)とせば『ことば風土記』一九四二年)などによって私たちが知っている近代以前の日本の社会での子供の姿と重なるところが多いからである。子供が社会で現代のような特別扱いを受けなかったこと、年上の仲間から社会生活のルールを学ぶことが多かったこと、等々である。

それどころか、かつての日本では――柳田にふれて山口昌男氏(「子供の世界」から(大人の世界)へ)一九八〇年)が強調しているように――子供はむしろ神に近い固有な存在としてみとめられ、独自の世界をもつたものと見なされていた、ということがある。 **A**、多くの社会で子供は神様であると考えられたが、古来わが国の社会でもそうだった。ただし、ふつうの生活のなかでは、こうした考え方は直接表面化することなく、潜在的に神であると考えられた。

そして柳田の示したように、一見なんの意味もないようにみえる子供の遊びが、その源に遡ってみると、神を祀る行事であった例が少なくない。つまり子供は、その悪戯も含めた無邪気さのゆえに、神がみずからを顕わして、人間の世界に自分の意志を伝える仲介者として使われやすくと考えられていた。子供の参加した多くの行事が、神事への関心の衰退とともに、遊戯として片隅にとり残されたのであった。

このようにわが国では子供は神に近い存在と見なされていた。 **B** それは、ルソーが『エミール』などのなかで言っているように、自然の善性と結びついた善良さと種性、という捉え方とはちがうものだ。ルソーによるこのよきな捉え方は、合理主義的な近代の知の支配のなかで当時としては画期的なものであったけれども、今ふりかえってみると、むしろロマン主義的な近代の(子供神話)の源流の側面をもっている。しかもまた、それは、『子供たちが大人になる前に子供であることを望んでいま』というこぼが示すように、子供を大人の前段階としてのみ捉える発達心理学の考え方も結びつくのだ。

かつての日本で子供が神に近いと見なされていたということは、子供がただ純真、だとか無垢、だとかいうのにはなしに――荒ぶる神でもあるものとして――同時に荒々しく残酷であること、つまり根源的自然をも体現していることを意味している。ともあれ、いま私たちにどうして必要なのは、子供の世にあるいは宇宙から見た複雑さやあるべき姿のなかに閉じこめるのではなく、そうした宇宙の独自性と始源性をトータルに捉えることであろう。そしてそのとき、子供の世界は大人にとつていわば(異文化)の世界として現われることになる。

本田和子氏(異文化としての子ども)一九八二年)も言うように、子供への私たちのまなざしが、科学的装いをもった発達心理学的な子供観の拘束から自由になるとき、子供は私たち大人にとつて、その他者性をあらわにする。 **C**、子供たちはおのずからの反秩序性の体現者であり、いわば文化の外にある存在として、その存在自体が秩序を問いかえしているからである。子供の逸脱的な在り様が人々を脅かし、大人たちを正体不明の不安に陥れるのである。

子供のような優、犯になし、大人は秩序をおのれを守ろうとする。そして、子供たちの本来の姿を排除する装置を作り出す。他方、子供たちのほうも、本来の姿を覆いかくして秩序のなかに組みこまれることで、自分の場所を確保しようとする。ところが、無自覚にそれが達と呼ばれ、それを促すものが教育とされたのではなかったか、むしろ必要なのは、子供をはっきり他者あるいは異文化として見なすことである。そのとき子供は、私たちが大人が世界を捉えなおし世界と新しい関係を結ぶために大きな示唆を与えてくれるだろう。ただ、子供の主題化は、その場合でもさても子供不在になる陥罪に陥りやすいので、その点に気がつけなければならぬ。

(中村雄二郎「子供―深層的人間/小さい大人/異文化」)

問1

a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は **a** 1 **b** 2

1 顎 **a**

2 逸脱 **b**

問2

その意味とあるが、その内容を具体的に表している部分を本文中から四十五字以内で抜き出し、その末尾が「の発見の意味」となる形で、はじめとおわりの五字を記しなさい。解答番号は **3**

問3

空欄 **X** にあてはまる語として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **4**

- ア 集めた
- イ 引いた
- ウ 浴びた
- エ 装った
- オ 注いだ